

第3回新城市福祉従事者支援施策推進会議会議録

日 時 令和4年7月21日（木）午後6時～午後8時

場 所 災害対策本部室3

（座長、あいさつ）

いろいろなことが動き出して少しずつ具体的な形が見えてくると、嬉しいなという気持ちもしますが、このところ新型コロナの感染人数が増えてきており、またどこかで何か止まってしまうようなことが起きたら、ちょっと怖いなと心配もしながらですが、とにかく具体的な形ができてくることは、どの委員さんも楽しみと思っておられると思います。

何となく大きな行事をやりましょうというのと、それを上手にやることとか立派にやるのが目的みたいになっちゃうんですけどそうじゃなくて、この条例が、誰のために、何のためにやるかというところはいつも確かめながら進めていきたいなと思いますので、よろしくお願いします。

検討事項（1）各実行委員会チームの状況について

①魅力発信チーム

第2回魅力発信チームの実行委員会を6月21日（火）に実施しました。そこで12月18日の福祉フェスについて、まず福祉の何を伝えたいのか、またスケジュールとしていつまでに何をどのようにとどこをテーマにして、皆さんに意見をいただきました。まず市民に何を伝えるかというところで、この条例ができたことを伝えることがまず大事じゃないかという意見がありました。あと、テーマとしましては、「あなたにとっての福祉ってなにか」あと、福祉には支えてくれる人がいる、また困っている人にはどこかに助けてくれる人がいるということをお知らせしたいという意見がありました。

次に展示についてアイデアをいただきました。ひとつのアイデアとして、出生からこども園に通い、学校とか就職とか、また亡くなるまでに介護を受けたりとか、ライフステージの中で、その時にそばにある福祉と福祉従事者をパネルとかパンフレットで紹介できるといいかなという意見がありました。また、当日、12月18日に1日で準備と片付けをするのが大変そうという意見がありました。

あとは当日会場に足を運んでもらうには、楽しく学べるっていうところと、あと、大ホールで合唱団に参加してもらってスタッフも歌ったりとか楽しくできるといいという意見や、あと、福祉機器の展示ができると最新機器が目を引きってくれるんじゃないかとか、あとデイサービスの利用者や入所者の作品とか、こども園の子供たちの作品を提示するという意見や、会場でのスタンプラリーとか、あと、大ホールでボランティアで来てくれる団体が、例えばマジックとかフラダンスといった発表会をすると人が来てくれるかなという話がありました。

あと、写真のコンテストでは優劣を決めるのではなくて、広報で写真を公募して、例えば、新聞社関係のプロアマの写真クラブに福祉に関する写真を出してもらい、参加賞を用意するという形はどうか、あと、有教館高校の高校生の協力をいただけるといいということで、写真部だとかボランティア部に協力を要請するといいということで、有教館高校に別の用事で行く時に、福祉フェアだとか、魅力発信チームの活動に有教館高校の協力を得られるかという打診をしてもらったということがありました。あと、12月18日のフェアの中で、飲食だとか即売会が集客につながるという意見がありました。有教館高校の打

診を7月5日にしました。この時の学校の反応はいかがだったでしょうか。

(座長) 具体的に何をどのようにという話は全く持っていない状態でのお願いなので、ただ12月にこういう行事をいたします、というお願いをして、写真の展示の話があったので写真部の生徒さん、それからボランティア部の生徒さんにご協力いただけませんかというお願いをしたのですが、夏休み前の飛び込みなので、学校としてもすぐ具体的に何かということはないのですが、ただ校長先生がこの4月から代わられたので、一応話を聞いてもらって、改めて具体的なものが出ましたら伺いますということで帰ってきました。逆にこっちが具体的に何をどんなふうにというのをちゃんと持っていかないとお願いができない。結構生徒さんって時間が限られてるんです。特に平日の場合は。だから、何が頼めるかをこれからきちんと詰めていきたいと思います。

(事務局) いい感触だったと理解しました。今日の推進会議の結果を持って来週の火曜に第3回目の実行委員会を開いて、具体的に魅力発見チームの活動を詰めていきたいと考えています。以上です。

②連携推進チーム

(事務局) 7月13日に連携推進チームの実行委員会が開催されました。委員のみなさん、國信先生の動画を見て、「よくわからなかった」「難しい言葉ばかりで理解できなかった」という意見が多かったです。また「職務に参考になるような、もっとやる気の出るような話の方がいい」「困っている人を助けたような話なら一般の人でも聞きに来てくれるかもしれない」といった意見もありました。

そんななかで、やはり地域共生社会というものを行政も市民も理解しておく必要があるとして、この合同研修に一般の人を誘う時に、誘う側、私たちがその必要性を理解・納得していないと誘えない、という意見から事前に國信先生に来てもらって、3チーム全員で話を聞く、勉強会みたいなことをやったほうがいいという意見が出ました。時期としては8月か9月、4階の会議でという話になりました。資料で國信先生のプロフィールを付けてありますので、ご参考にしてください。

③事業所支援チーム

6月24日、3回目の実行委員会を開催しました。

実行委員会では、6月16日の推進会議から出た意見を実行委員会のメンバーの方にお伝えをしました。

6月16日の会議の中で、永年勤続表彰について、要件や対象がはっきりしてないため、初めの一步でなくてもいい、継続していくものなので、制度をじっくり考えても良いという意見をいただきましたが、実行委員会の中では、福祉の現場で働く励みになるよう、また福祉職を続けてもらえるようにということで、以前からの課題であり、予算をついていることなので今年度やっていきたいということで、ほぼ一致しました。

次に対象15名で、事業所から推薦されて妬みやぎくしゃくするといった話がありましたが、個人が立候補するものではなく、事業所でしっかり推薦して提出していただくものであるため、それほど妬みになるものではないのではないかという意見でした。

次に分野ごとに表彰ということで、児童・障害・介護などの分野ごとに毎年交代で表彰してみてもどうか、応募数にも差があるので、どうかという意見がありましたが、分野ごとに分けると、表彰の対象に差が出るのではないかという意見が出ました。

重みのある、また履歴書に書けるような名称が良いのではというご意見がありましたが、委員の中で

は、堅苦しくなくてもよいのではないかと、人が覚えやすいネーミングの方がいいのではないかと、そもそも履歴書に書かないのではないかとというような意見をいただきました。

6月24日の実行委員会後、委員さんと質問をメールでやりとりをさせていただきました。その質問というのが、事業所の推薦人数は何名以内が適当かというもの、従業員数に応じて推薦人数を決めるとした場合に、どのような分けて人数を決めるのが適当か、法人で複数の事業所がある場合、どのように推薦人数を決めるのかというもの、名称については、キラリ新城福祉賞で良いのか、他に候補はないのかということ、12月18日開催の福祉フェスについて、どんなことを今後決めていく必要があるのかということメールでやりとりさせていただきました。

いただいた意見の中で多かったものとして事業所の推薦人数としては、予算的に表彰者は15名程度という枠があるので、事業者数、従業員数から考えて、事業所ごとの推薦人数は定めず、1事業所1名までとするのが良いという意見もありましたし、法人の従業員50人ごとに1名程度までということで、2名から3名程度推薦していただければという意見もございました。例えば従業員50人未満でしたら、1名、51人から100人未満でしたら2名、101人から152名だったら3名などを、従業員ごとに推薦いただく人数を決めるという意見もございました。あと事業所のおおよその数を調べさせていただきました。変動があるかもしれませんが、介護が86事業所、福祉の関係は30事業所、児童の関係が16事業所ございまして、表彰については事業所数の10%ほどの人数を表彰してみてもという意見もございまして、例えば介護ですと、表彰する人数8人から9人、福祉ですと3人から4人、児童ですと2人から3人ということで、そういったことをお示しした上で推薦していただければ、推薦人数は事業所に任せても、人数はあまり増えないのではないかと意見をいただきました。

次に名称についてなんですが、こちらの方はキラリ新城福祉賞でよいのではないかと意見が最も多かったです。永年勤続表彰でなく、キラリ新城福祉表彰として、新城の福祉の未来をキラッと支える若きエクセレントを表彰する制度というように、表彰の趣旨、目的を明確にする必要があるという意見もいただきました。それとは別に勤続5年ぐらいで、日常の業務において、職場の模範となる職員であれば、キラリ新城福祉賞あるいはそのような雰囲気の名前で良いという意見をいただきました。あと勤続5年というのが、これから勤続してもらうためのエールとしての表彰を行うもので5年以上にしておけば20年以上の方々を推薦してもいいし、むしろ各法人の裁量で選抜してもらえばいいのではないかとというようなご意見をいただきました。ということで、要件や名称は事業者支援チームの中で意見の集約までで止まっているのが現状です。以上です。

(委員) 事業所支援チームで、介護・福祉・児童という言い方でしたけど、福祉というのは障害のことで、介護・障害・児童という理解でいいかという確認です。

(事務局) はい。そうです。

(委員) 表彰するとき本人がスピーチをしたりするのか、それとも司会者が、この方はこういうお仕事してて、こういう貢献してるとか、どういう思いでやってるとかを説明して表彰するのか、それとも、その本人の上司なりが紹介してあげるのか、ただ表彰するだけじゃなくて、何かお話ししたりする場があるのかというところが気になりました。

(事務局) 表彰される方の人物紹介だとか、例えば事業所の紹介もあわせて行うとか、また、このフェスが終わった後に、広報ほのかで表彰者の紹介、市内の事業所等の紹介を併せて掲載してはどうかという

意見がありましたので、またそういったところを詰めていきたいと思います。

(委員) スピーチとかあると面白いかなと思います。

(委員) 表彰に対する名称を統一的なものと考えてらっしゃるようですが、各事業者に任せて、例えば笑顔がいっぱいであるとか、推薦理由イコールその表彰みたいな。そうすることによって介護職だとか、障害とか児童とかあるんですけども、何か統一した名称でそれに沿ったものを選ぼうと思うと、ちょっと差が出てきたりするような気がするし、勤続 5 年の人と勤続 20 年の方は、ベテランで賞でもいいし、15 人いろいろなものがあってもそれで面白いのかなって思いました。提案です。

(委員) 連携推進チームの國信先生のお話を 8 月か 9 月に事前に聞くってことですけども、聞いたものはまるっきりおなじものを 12 月 18 日に聞くってことですか。

(事務局) 市民の方に話すときは、もっとわかりやすい感じになるかなと思います。

(委員) 今イメージしてるのは、例えば実行委員のメンバーが見た動画は YouTube 動画ですけど、とても行政向けの難しいものだったんです。でも、蒲郡で聴いた本人の話は現場での実践も含めたすごくわかりやすい話だったんです。その温度差があるんです。蒲郡がとても分かりやすかったのを受けた僕たちは、國信先生はもっと咀嚼できる人だと思うんです。そのオーダーをしたものをプレのときにいただいて、もうちょっとこうならないかなっていうオーダーをしながら、当日に向けてカスタマイズしていけたら、というイメージです。

(委員) 私はそういうふうに提案したつもりです。ですので、コアメンバーで一旦聞いておいて、國信先生のお話を 1 回聞いた後の方が時間配分の組み立てがよりやりやすくなるのではないかな。そもそもこの研修は合同職員研修という位置付けであったので、当然のことながら、福祉関係者はまず聴いて欲しいと思うんですが、國信先生の話は、商工会とか J C といった人たちも呼んだらいいと思うし、面白いと思っている。それこそ 1 回コアメンバーで聞くときにも、もうすでにその人が入ってもいいかなっていう感じはしてて、それで、12 月は大ホールになっているので、より多くの人に知っていただけるといい。

(委員) おいおい市民を巻き込んでいけるようになるためにも、まずは合同職員研修であるならば、國信先生の話がどのぐらい魅力的な話なのかが、僕たち自身が分からないことには呼びかけれないと言う話があった。だからそこで咀嚼して、きちんと形作って、このテーマで、このぐらいのレベルで、こんな内容を盛り込んで、と事前にプログラムできれば、当日は仮に職場ごとの動員だったとしても、響くものはあるのではないかなと思う。

(委員) 事業者の協力をいろいろといただくと思うんですけど、いつ頃、どういう内容でやるか、ある程度の大ざっぱでもいいんですけど、そういう通知や相談はいつ頃されるのか。早めに通知したほうがいいんじゃないかなと思います。

(委員) 骨格が全部見えなくても、今こんな方向で話が出てますとといったもの。まず日程だけでも押さえていただきたいと言った案内ですね。

(座長) こんなことをやりたいと思ってることと、日にちはこの日にやります、ということをお知らせして、できる範囲でご協力をいただきたいと呼びかけした方がいいですね。進んだらまたこんなことが決まりましたって、具体化したところはそれでお願いしていきたいと思います。何か広報チームがいるみたい。

(事務局) 広報チームがいるのと、あと、皆さんはそれぞれの代表で来ていただいていると思っているの

で、各団体、それぞれ話を降ろしてもらい、こういうふうにやりますといったことを発信していただけないかなと思っています。

(座長) でも、共通したものがあって、それぞれの団体等に出さない、話の内容も変わってしまう。だから、できればこの会議の外へ出すときは、共通したものがきちんとあるという形にしたほうがいい。

(事務局) 今日、企画書的なものを用意させていただきましたので、これを持っていけるのかと思いますが、これをもう少し改良しながら、タイムスケジュールを含めて、やり方を協議していただきたいと思います。

(座長) 出すときはいつも共通したものを出していく、同じぐらいのタイミングで出していくということを繰り返す方が良いと思う。

(委員) 実は明日、1時30分からボランティア連絡協議会の総会があるんです。1ヶ月ぐらい前にその準備の理事会をやったときに、社協の方に12月18日はもう決定ですから心の準備はしててください、と言ったんです。いろんな団体のメンバーを動かそうと思うと、やはり2ヶ月に1度ぐらいの会議が必要で12月18日という、時間がもうないのかなと感じるので、少なくとも明日の段階では、12月18日、日曜日は空けておいて、ということだけはお願いしておきたいなと思います。

(委員) この概要をここで確認できて承認していただいたのなら、これを出していいということでもいいか。

(委員) これ出すにしても、(案)とか(仮)とかそういうので出しますよね。

(座長) 決まったこと以外はそうなりますね。

(委員) 概要を出すときに、合同職員研修は職員が主であるというふうに捉えるのか、もうちょっと広くボランティアさんや一般市民にもわかるようにするのか、その辺のところはどうなのか。

(座長) さっきの提案として、この条例の中に書いてある合同の研修という位置付けなんだけれども、内容としては市民の方にも共有して、例えば福祉の部門でない市役所の人にも共有してもらえる、地域の福祉系の団体でないところも共有してもらえるような内容にできるといいということだったので、いろんな方に呼びかけができると思う。

(委員) 國信さんのお話を聞いた段階でいうと、これはもう福祉関係の職員の方がわかってくれなきゃ困ること、というふうに捉えたので、だからそれを一般市民にとするのはとても無理な話なので、もうちょっと砕いて一般市民の人が、私たちもその話を聞いてもいいんだよね、というふうに思えるように伝えていかないと、そこで切れてしまっただけでは非常にもったいないと思うので、一般市民の方々にも分かりやすい文言で作っていただきたい。特にボランティアの方々にお話ができるようにしたいと思っていますので。

(座長) 福祉フェアって書いてあると大体関係者しか集まらないと思われてしまうところを打破したい、いろんな人が関わってもらえるようにと願ってますが、多分それはみんな同じ思いではないかなと思う。

(委員) 魅力発信チームの実行委員会に出てるんですけども、この中ではあくまでも一般の人が来るというイメージで、それで関心を持ってもらうようなきっかけにして欲しいと思っていたんですけど、職員研修という話を聞いて、それもあるのかと感じた。対象者は、どなたでもということによろしいわけですか。

(座長) こういう仕事してる人だけとか、こういう活動してる人だけが来て欲しいとか、こういう人じゃないといけないとか、そういうことも外していきたい。

(委員) スタンプラリーみたいにして、それでちょっとした景品をもらうようにしたらみんな来てくれるかな、なんて話をしていた。

(委員) 永年勤続表彰という事業所に勤めてる方だけが対象になってしまうので、地域のボランティアの方も表彰されるような仕組みを望みます。提案です。永年勤続表彰じゃなくして、表彰にすれば何でもなると思う。

(事務局) 前回の会議では、そここのところは含めるということだったと思うんですけども。

(委員) 事業所だけの人が表彰されるんだったら、永年勤続表彰でいいと思うけれど、市民の人も福祉に従事している、福祉に関係しているというようなことを発信するのだったら、事業所に勤めてる人だけを表彰するっていうのはどうかなと思って、地域でボランティアしてる人もいるので、そういう人を表彰してもいいんじゃないかなと思った。

(委員) 個人だけじゃなくて、団体が表彰されてもいいですね。ボランティア部とかはぐるまの会だとか。

(座長) この条例は、職業としている人だけではなく、地域で活動している人も含めて、なのでそうかなと思います。

(委員) 職員研修の発表について、例えば介護保険のデイサービスに努めている職員さんは、デイサービス以外の福祉の方を知ってるか、障害の部門にいる人はその部門以外の景色を見れるか、というようなことだと思うんです。なので、従事者も全体が俯瞰できるような、目線に触れるというか、そういったことはすごく大事で、そうなるに従事者だけじゃなくてボランティアであったり、住民も企業の人、実は境目が無いっていうことを共有できるような時間を國信先生をきっかけにスタートできたらいいなというニュアンスで受けとめてるんです。

(委員) もともとチームのところに、合同職員研修と書いてあったので、そこが出発だからというだけで、それをどう広げるかは、話し合いの中で広がってきたのではないのかって思っている。

この前、國信先生の動画を見ようとチームで言ったのは、今回、福祉を仕事にしてる人だけではなくて、行政も入ってる。行政の人たちが、あの動画が理解できないと、この先作っていけないということもあって配信したつもりなんです。ややこしいことを行政の人が理解できなかつたら、民間の事業者も含めて動きようがないです。もともと行政の方のために作られたものだから、行政の方たちが僕たちにわかりやすく言っていただくことが必要になると思います。國信先生が毎日いるわけじゃないですから。

(事務局) 表彰にボランティアさんを含めるっていうのは、ここの会議で統一されたご意見とっていいんでしょうか。

(委員) 提案なので、事業所支援チームが考えればいい。条例にはボランティアさんも含めて福祉に携わった人となっている。事業所に職業として勤めた人しか表彰しないとチームで決めればそれはそれでいいけれど、ボランティアをした人も表彰してもいいのではないかと、というのが意見です。受け止めてください。

(2) 進捗管理（スケジュール）について

① 魅力発信チーム

(事務局) 資料、進捗管理表の魅力発信チームを見てください。福祉フェア全体の動きを見て変えるつもりですが、有教館高校の協力依頼ということで、7月の月上旬に打診をしました。

8月ぐらいには正式な依頼をして、写真部の取材などは9月ぐらいから活動してもらって、11月には準備、当日を迎えるというスケジュールを考えていて、福祉フェアにつきましては、福祉サービスや従事者、事業者の紹介っていうところでは、来週の実行委員会で内容を決定して、8月ぐらいから具体的に事業所に資料作成依頼をしていかないといけないと思っています。

11月上旬には展示の準備を始めていきたい、また、写真展とかは8月ぐらいには写真クラブに打診をして、公募は9月ぐらいから募集をかけて11月上旬にはまとめて準備する、あと、福祉介護機器の提示につきましては、8月ぐらいには業者依頼しないと間に合わないかなと思っていて、即売会等は、展示室以外のところになります、8月ぐらいからいろいろ動いていかないと間に合わないのかなと思っています。全体の動きを見て、修正したり実行委員会で、ここはどうするかってところで詰めていきたいと思っています。今のところこんな感じです。以上です。

②連携推進チーム

まず、講師依頼ということで、國信先生の内諾は済んでいます。9月の中旬ぐらいからは、本予約ということで、正式な依頼を出す予定です。そして、合同研修の内容検討ということで、先ほど言いました8月、9月の勉強会も含めて、10月ぐらいまでに内容の検討を考えております。また、企画書の作成は8月、9月で考えております。

講師との内容調整ということで、11月終わりぐらいを目途に進めていきたいと考えております。

また、実践発表者等の依頼につきましても、これも10月11月に進めていきたいと考えております。

資料の準備につきましては、11月より準備していきたいと考えております。以上です。

③事業所支援チーム

要綱の確定ということで、趣旨や目的や対象、選考方法、表彰方法などの確定が8月いっぱいまでに行いたい、それが決まったら事業所への案内文の作成や送付を9月に行いたい。次に、記念品の決定、手配を11月、推薦者の選考、決定を10月に予定しています。あと表彰者の人物紹介を、できればフェスの前か、フェスが終わった後に広報等でご紹介できればとスケジュールを立てさせていただきました。以上です。

④事務局

8月から開催案内とチラシ作成を考えていきたいと思っておりますが、ある程度、粗々内容が決まりましたら考えていきたいと思っております。10月中には通知、配付を行っていきたいと思っておりますが、どこに通知していけばいいか、またご意見をいただきたいと思っております。

次の会場案内図作成ですが、ここでは何がやっている、といったことが分かるようなチラシなりポスターなりを10月末までに作成しようと考えています。

次の報道機関・議員発表ですが、11月当初、広報が出る前に発表を考えています。

広報ほのか原稿作成、掲載ですが、掲載は11月15日に出る広報ほのかに掲載しようと考えています。

最後、ステージ進行原稿作成ですが、ステージの司会者が読む原稿を11月末までに作成したいと考えています。以上です。

(委員) 事務局では11月15日の広報と、魅力発信では9月の広報と説明があったが、この辺はどうなっているか。

(事務局) 広報の原稿締め切りが早いので9月の広報には間に合わないかもしれない。広報の前にチラシを配ったりして、11月15日の広報に掲載するのが一番現実的だと思う。

(座長) 広報に記事を書くと、チラシは入れてもらえないか？

(事務局) できません。

(委員) 魅力発信チームの写真を展示するイメージが湧かない。どんなイメージをお持ちか教えていただきたい。

(事務局) 今考えているのが、プロアマみたいな人については、ご自分で写真展示をしてもらって、パネルに入れて展示されると思いますが、それを準備してもらって貼る。一般の方については、写真を大きくして展示室に貼っていくイメージでいます。またご意見をいただければありがたいです。

(委員)

写真展示というと、額に入れて下に撮った方の名前とかタイトルなどが付いているけれど、僕は従事者なので、写っているものがどういう状況なのか見て分かると思うんですけど、何も携わってない方がそれを見て、何をしているところなのか疑問が浮かばないかと思います。何か一言あると、その写真一つで魅力が発信できると思いました。

(事務局) ご意見、参考にさせていただきます。

(委員) 先ほどのチラシというのは、一般市民も含めた入場者への告知という意味でのチラシだと思うんですけど、その前に協力者というか、ボランティアスタッフというか、そういうものを募集していく時期は、このチラシよりも早い段階でいろいろなところに依頼をする。募集、協力、お願いというようなことを各団体で、何人協力者を出せるかというような話になってくると思う。一緒になってこの福祉フェスを動かしていく、手伝ってもらおうというメンバーが必要なのか、そこまで手を広げずに、今、実行委員会にいるメンバーが、そのまま実行部隊として動いていくのかというのが、ちょっとこちらでも整理ができてない。

(座長) 内容がきちんと決められないと、人様の手を借りるか借りないか、或いは、どういう方法ができるのか、お金がかかるかかからないかという話も、今の段階だとわからない部分もあるかと思うんですけど、外に対して何かをお願いしたり呼びかけていくのは、統一したものを出していけるような形に考えていかないと、お手伝いしてくださいっていうこともそうだし、或いは、この部屋で出店してくださいってこともそうだし、その辺はちょっと全体をプロデュースする人が必要かなと思います。個別には動いてるんですけど、全体を組み立てたときどうなるかを考える人がいないといけないと思います。

だから有教館高校に写真の話で行ったんですけど、校長先生から、うちはボランティア部があるんですよ、と言われてしまった。当日、例えば受け付け手伝ってって言うてくれれば、手伝いに行くことだってできるんですよ、と言われてたので、まだこちらの中身が煮えてないので、煮えたらまた来ますって言うてきたんですけど、今はまだそういう状態かなとは思いますが、手を借りる、物を借りる、いろんなことが出てくると思う。そこら辺をそれぞれの実行委員会で話を詰めていって、なるべく早くそういったお願いは出していけるようにしたいと思います。

(委員) その件で、自分は社会福祉法人連絡協議会というところから出てきていて、事業者という立場で出てきているわけです。事業者として、この条例推進にどう関わるかということで、うちはこの日を仕事という位置付けにしました。会社として、仕事と定義して職員さんはそこに参加します。グループホームやヘルパーをやっている事業所もありますので、全員ではないんですけども、会社として出ましようという位置付けにさせていただいた。来週、連絡協議会があるので、そこに持ち帰って協力をあおぐということをしなきゃいけない。事業者自身が積極的に参加しなければ、市民がついてこないと思うんです。一生懸命やっていると姿勢を出していかないと、事業者としてまず先頭を切らなきゃいけないんじゃないかなと思います。

(委員) 写真展の話ですけど、写真を引き延ばすとか、写真にかかる費用の予算はあるのですか。

(事務局) あります。

次第(3) しんしろ福祉フェアについて

(事務局) 第1回のしんしろ福祉フェアということで、サブタイトルは、「ふくしでまちづくり in しんしろ」、テーマとしましては、「あなたにとっての福祉とは」ということで進めていきたいと思っています。目的ですが、ここをしっかりと持っていないといけないと思いますが、まず、地域の方々に福祉、介護の仕事に魅力を持ってもらわないといけないものですから、その辺の興味関心を持ってもらう機会の提供、それから最終的には福祉従事者の担い手を確保するというのを第1の目的にしたいと考えてます。また、市民の共通理解も含めてやっていきたいということで、従事者の魅力と市民の方たちの理解というところで二つの目的を提示させていただきました。開催は12月18日です。内容は今のところ資料のとおりを思っています。次にタイムスケジュールですが、各ブースごとに作ってみました。今、全館予約していますが、まず1階につきましては、スタッフさん達の荷物置き場、休憩として使っていただく。それから3階につきましては、今301から304まで、会議室、講習室がとってあります。そこを例えば、ボランティア活動の紹介をしていただくようなブースとしてはどうかと考えています。例えば四つの部屋をボランティアさんたちに提供し、どういった活動を紹介していくのかを考えていただいて、そこでパネル展示や、AEDなどの実技など何かできませんかというお願いをさせていただきたいと思っています。展示室ですが、先ほど魅力発信チームでもありましたように、そこはお任せするというので行きたいと思っています。大ホールですが、開会式をやってそれから表彰をすると、おそらく11時頃に終わるだろうということで、それから何かここで発表をやってもいいと思っています。ボランティア活動の発表をやってもいいと思っていますが、後ろから逆算して、國信先生の講演会を12時半頃から1時間ぐらいで始めさせていただいて、そのあとパネルディスカッションを1時間ぐらいやってと決めました。あとの30分ぐらいは、また活動発表、例えば歌を歌ってフィナーレ的なものをしていただいて終了するというイメージを持っています。それからラウンジですが、そこでは授産所等の即売所でもいいですし、制作物の展示をしていただきながら、例えばそこで高齢者の疑似体験であるとか、階段を上ってもらったり、スロープを歩いてもらったりといったことをやっていただいてもいいかなと思っています。最後に大会議室が空いてますが、そこへ例えば、高校生の何かの会議をここに当ててもいいかなと思っています。また、大ホールの司会も高校生にやってもらえないかと思っております。若い子たちにいろいろ見てもらって、共生社会、地域づくりの担い手育成の意味も含め、一緒に聞いてもらったりやってもらったりするきっかけを会議室を使って何かやってもらえないかなと思っていますところなのでちょっと開けてます。案内

図につきましては利用の案を付けてあります。今考えているのはこんなところでございまして、意見をいただいて、これを詰めながらしっかりした企画書とタイムスケジュールにしていきたいと思っております。

(委員) 先ほどの事業所が仕事の一環として積極的に関わっていくというところなんですけど、事業者の説明する時に仕事の一環として参加してくださいとしたときに、その事業所は仕事としての指示で行ってもらえることになるのか。それとも、参加する人の自由なのかというところで疑問が出てくるのではないかと。

(座長) 多分、事業所ごとに違うと思います。そういうことはしませんという事業所もあるかもしれない。

(委員) 仕事として行かせるのか、自由なのか、それを事業所に判断を全部任せるのか、ちょっと整理しないと。

(座長) 私たちは強制ができる立場でもなければ、そういう力もないので、無理に来てくださいとか何が何でもとか絶対にとかは言えないと思うんだけど、うちは協力いたしかねますという事業所があってもそうですかと言うしかないのかなという気がするんですが、どうでしょうか。

(委員) 社会福祉法人は、公益的取り組みをとわれているので、社会福祉法人さんの事業所であれば、来ていただきたいという訴えをしなきゃいけないと思う。強制力はないですけど。社会福祉法人は優遇されている部分がある。こういう取り組みに積極的に参加して欲しいということを持ち帰って訴えなきゃいけないだろうと思っています。

(座長) それぞれの仕事の都合でとても難しい、日曜日は特に難しいところもあるかもしれない。お願いはするけれども、絶対に、どうしてもというのは言えないと私は考えてますが、それで良いでしょうか。ご案内はします。でもそのあとの対応はそれぞれにお任せするというところでよろしいですか。(同意)

(委員) 講演会の時間体が、他の発表とダブったりしないように、全体のスケジュールリングの中で、なるべく出やすいように、出たいんだけど大会議室で会議やってるから出られないという状況を作らないようにある程度コントロールするように。12時半というと食事の時間も考えないといけない。時間体を上手に配分して、出やすいような全体のタイムスケジュールを作るといいと思いました。

(事務局) 大会議室はできれば午前中に済ませて、講演会に流れていただくようなことを思っています。

(座長) 大会議室は返しちゃってもいい。使いにくいし、話が聞こえにくい。

(事務局) 男女共同参画は大会議室でやらなくていいですか。

(座長) 大会議室は使わない。新城文化会館が一番進められない部屋。

(委員) 大人だけでやる必要はないのかなと感じる。

(事務局) ボランティア部を使わない手はないと思う。20人ぐらいいると思う。

(座長) 有教館高校になってから変わってるので、まだ確認してない。ボランティア部もありますという話は聞いたんだけど、新城高校の時と同じような活動してるかどうかもちょうとまだわかってない。

(委員) 去年、ボランティア集会で横断幕をボランティア部の方に頼んだときには、確か全員で14人ぐらいだった。ただ、それに携わるかどうかというのは、本人の自由意思だったから、半分ぐらいだったと思う。

(委員) 大会議室は、高校生に自由に使わせたい？

(事務局) 何かの会議と合わせて、そこに高校生を呼んで、なにかやった後に大ホールに流れてもらうような、そんなことをできないかなと思っている。

(委員) 昨日、男女共同参画会議があったときにSDGsを勉強しているようで、だったらその発表会をやってもいいと思う。なににせよ男女共同参画は普通の会議室でいいです。

(委員) メーカーさんと呼んで、福祉用具の宣伝をしようと言っていたが、場所は展示室になったのか。

(事務局) 部屋割りはしてなかったもので、もし展示室の中でパネルなどが多ければ、301 会議室などちょっと広いところで、業者さんをお願いして最新のものを持ってきてもらうように頼んだ方が楽なのかなと思う。

(委員) その方が準備の関係とか、写真パネルを張ったりすると意外と場所を取っちゃうので、この部屋をあげますって言って渡しちゃった方がいいと思う。メーカーさんとじっくり話したい方もいらっしゃると思うので。

(事務局) 動線的にどうかと思う。ちょっと考えます。

(委員) 私たち地域に暮らしてて、介護サービスを受けようと思ったときに、どこでどういう相談していったら、サービスが受けれるかという、介護行政の仕組みっていうところも知りたいので、何かそういう場所もあるといいと思います。

(委員) 福祉車両の展示や体験みたいなものをしてはどうか。大きいし下の通路のところで何台か並ぶだけでもインパクトがある。普段、使わないし触れないので、この機会に。そういうのに携わりたいって人もいるかもしれない。この間、大学生が福祉の現場を体験したんです。デザイン科の学生で、要するにユニバーサルデザイン、いろんなものをいろんな人が使いやすくなるようなためのデザインができるような企業に就職したい、だからその一環として福祉を勉強して、西部福祉会館に実習に行ったんです。そういう子たちや企業の人達だって、暮らしやすさのために貢献しようと思って自分のテクノロジーで参加してくれるのではないかな、そういう人達もいたらいいかなという気がしました。

(委員) 個人的な意見ですけど、あなたにとっての福祉ではなくて、私たちにとってのほうが個人的にはいいかなと思います。

(委員) 事業の目的の2行目のところ、「提供するとともに」が押し付けがましい気がする。普通に「機会を作ります」でいい。また、福祉従事者の担い手確保の一助とする、とつながればいいと思う。それと場所なんですけど、「新城文化会館小ホール使用不可」と書いてあるけど、「新城文化会館全館（小ホール以外）」とか、もうちょっと優しく。

(委員) 新城文化会館だけにしておく。たどり着ければいい。全館はなくていい。

(委員) 文言のことで、事業の内容に、「授産所等」って書いてあるけど、授産所という言葉何かを変えた方がいい。「福祉介護の」というふうにするのか、昔の言葉で言えば福祉作業所というふうになるんでしょうし、市民の人が分かるイメージがいい。制作物展示販売は分かるんですけど、授産所って言葉自

体がちょっとないので。福祉事業所という言葉が一番たくさん含むのでは。一般の人からすると福祉施設等の制作物を展示、即売の方がいいのか。

(委員) 別にボランティアの人が製作したもので販売してもいいんですよね。そしたら「制作物展示」とかでいいのではないか。

(座長) あと、永年勤続表彰も消しちゃって単なる表彰だけにしておいて、あとから考える。

(委員) お昼ご飯、レインボーさんのカレーは来ますか？

(座長) キッチンカーを出してくれるところがあればいくつか出してもらえるといい。

(委員) 声かける以上は売れないといけない。弁当持って来ないでとか。前に、頼んだけど誰も買ってくれないじゃないかっていう話があった。そうならないようにスタッフはそこで買う。ある程度の個数は確保してあげないと売れ残っちゃったら逆に迷惑かけちゃうこともあるかなと思います。

(委員) 福祉について困ってる人の中には外国人の方もいる。チラシや看板を作るときも少し配慮するといいい、普段なかなか接しられない外国人の方にスポットを当てると、そういう雰囲気が高まるのかなと思います。

(委員) 福祉フェスのイメージがちょっと持てなくて、合同研修の延長線上みたいなのかなと思ってたんですけど、今聞いてると地域の皆さんにとか、広報で宣伝していくとか、地域の皆さんに来てもらうってというイメージでいいのか。そうすると、子供を連れてきた3世代で何か聞いてもらえるような感じになるといいのかなと思うのと、おじいちゃん、おばあちゃんが福祉用具を見ているときに児童部門の先生方とかがいれば子供たちが遊べるブースだったり、ちょっと休憩できるブースとか、そういうのがあってもいいのかなと。高校生もって話もあったので、それよりちょっと小さい人も対象にとらえていいのか、そこまで考えずに高校生以上でやるのか。それから表彰のところも、最初は円卓会議の延長線上の感じで考えたんですけど、この福祉フェスのイメージが大分変わってくると、皆さんにもその辺を伝えていきながら、対象者もそのフェスに合わせた対象者になってくると、まったく話が大きく変わってくるのかなと思いましたので、そのイメージが、皆さん同じ方向でできてるのかなという意見です。

(委員) 連携推進チームに保育士さんがいる。保育士になりたいっていうことを中高生で目指しててイメージしてる人がいる。その子たちも会場に行きたいという流れがあってもいいと思うし、私事にするようなストーリーみたいなものが作って如果能たら、それは大事なことだと思います。

(委員) 小学校の息子が、持ち帰ってきたチラシの中に、さわらび会の8月にある親子福祉体験講座というものがあって、その中に、障害者体験、高齢者体験、アート体験、福祉車両講座、手話講座と書いてあって、それぞれ、何時から何時までと書いてあった。タイムスケジュールがあると、ピンポイントにここに参加したいっていう方が来るので、事業内容にこれは何時からと書いてもらえると、行きたい人が動きやすくなるかなと思ったのが一つと、何回か豊橋のフェスに参加したことがあるんですけど、高齢者の体験で車椅子を乗る方を募集していて、押す方は市内の中学生なんです。中学生が押しながら自分たちでルートを決めて声かけしてるんです。「早くないですか」とか「この段差は、こう来ますから気をつ

けてくださいね」とか中学生が声掛けしてる。なんかすごく新鮮だなと思った。規模は大きくなりますけど、世代を超えて参加してもらって、興味を持っていただく世代を巻き込んだ方が楽しくなるかなと思うので、その大会議室を、例えば手話サークルの方を呼んで挨拶の講座とか、展示とか、そういう方たちが中学生や小学生にペットボトルを使った美術とかそういうのをやってコミュニケーションをとるのも楽しいかなと思いました。

(委員) 市民の立場だと、やっぱり写真展示とかのイベントがあっても、目的がないとみんな行かないと思う。呼びかけをするけども、今、間近に介護に直面してるような人とかでないに興味は湧かないと聞きますし、やっぱり他人事になってしまうと思うんですけど、楽しく遊びに行きがてら、何かやってるのでついでに見ていく、そのついでが写真展であったりとか福祉介護の紹介とかに繋がっていきやすい。そこからこういう世界があることを知る。知るきっかけって、本当に目的がある人じゃないと足を運ばないというのは、自分自身もそうだし、周りの人を見ても思うので、遊ぶとか、何か体験、何か楽しむ場、イベント的なことを盛り込んで、行くきっかけをなんか一つ作った方がいいのかなって思いますが、壮大になってしまうので初回からここまでやるかどうかはちょっと。

(委員) 以前、お客さんを動員するために、よさこいとかキッズダンスをやることによって子供たちの親達が見に行くっていうことがあって、そういうのが企画されてきた。それと同じで、親が出たのがたまたま福祉であっただけで、そこからつなげていくというのはよくあります。

(座長) できることに限りはあるので絞っていくけど、なるべくいろんな人に来てもらえるようになるといい。例えば講演会をやっている周りで何をどういうふうに展開するか。さっき言われた福祉車両だって、そういう仕事をしているところへお願いをすれば車を貸してくれるかもしれない。少し工夫すればできるのではと思う。

(委員) 大会議室、はぐるまの会にお願いして、部屋を全部あげるの自由に使ってと言ってみたらどうか。

(事務局) はぐるまさんには、大ホールで手話とか要約筆記とか、活動発表を兼ねてやってもらいたいと思っている。

(委員) 要約筆記ってすでに僕が今しゃべってることを、この速さで文字化されるテクノロジーがあるので、それをやったらいいのではないかな。まだ直接触れる機会はないけど、情報としては何年も前からある。聴覚障害の人がいても一緒に会議の内容を把握できる仕組みがあるんです。でもそれって、いろんな会議に行くけどあまり目にしたことはない。そんなことも知れると、そういうことに携わりたい人もいるのかもしれないので、いいかもしれない。

(委員) 現時点では、講師の方に事前に講演の内容を聞いて書いている。

(委員) MDトークっていうものが5年ぐらい前からあるけれど、お金がかかるので要約筆記で行っている。このぐらいの速さでしゃべって、あと専門用語、医療系とかスポーツ系とかそういう辞書が入ってて、正確に同時に文字にできるんですけど、いいものは高い。

(委員) 今やってる仕事が楽になる可能性がある新しい技術を展示してもいいと思う。業者の方はそれを売りたいわけだから、営業経費で全部やってくれるので一石二鳥というような話を魅力発信チームの中でした。

(委員) 講演会のタイトルが地域共生社会について、となっているけれども一般市民では分からないと思うので福祉フェアのタイトル、「私たちにとっての福祉とは」のサブで地域共生社会について、としてくださった方が、最初から地域共生社会のイベントとなってしまうよりいいのかなと思います。

(事務局) この概要の資料だけで事業所やボランティア団体にお問い合わせできますか？

(委員) (案) つけて、今、ここは話し合いをしています、こんなイメージのものを企画中ですとすればいい。はっきり決まってる文化会館を使うということ、時間帯は昼間、ぐらいい載せてもいいのではないかな。

(委員) 今出た意見くらいは載せてもいいと思う。「提供する」はかたいから「作るとともに」にすればいいし、タイトルは、「あなた」がいいか「私」がいいか分からないけど、「あなた」「私」っていうのが必要かどうか、「福祉って何」とかだけでもいいかもしれない。地域共生という言葉はかたいので、後に持っていった方がいいとか、授産所という言葉はなくてもいいってことを決めればいけないかな。

(委員) 明日、団体の総会で私が説明できればいいんですけど、それを各団体の代表の方が持ち帰って、今度はその人が説明できるようなものであるといい。

(事務局) 明日おじゃまさせていただいて、資料を持って行って皆さんにお願いしようかなと思います。また、ブースをみなさんにお渡しするので考えてというお願いも皆さんにしたいと思います。

(事務局) 「あなたにとって」は「私たち」、「提供する」は「作ります」、で「小ホール使用不可」はやめておきます。「授産所」は「福祉事業所等」にする。永年勤続表彰は「表彰」のみ。

(委員) 講演会のタイトルで、「私たちにとっての福祉とは」を主タイトルに、サブタイトルで地域共生社会についてと。

(委員) 講師のお名前とか、もう決まってるんですか。

(事務局) 正式にはこれからです。

(座長) 資料の1枚目だけをまず出していく。タイムスケジュールはまだ細かくは詰めれない。

(委員) 講師についてですが、タレント性のある福祉の講演をする人を呼んだ方が、取っ掛かりがいい。だけど、僕らのチームとしては、そういう人を出そうといえば出せたと思うんですが、あえてそれはしていないっていうところは、この条例に基づいてやっていこうとしたからです。そういう人を呼べばホールは満杯になるけれども、ただ満杯にすればいいというものではないうちのチームは考えたんじゃないかと僕は思っています。

(事務局) 今日意見はいろいろ聞かせていただきましたが、どこかで線を引かせていただきます。

(座長) 全部が全部できるわけではない。風呂敷広げすぎるとたためなくなるので。

(事務局) 最初は小さく、だんだん大きく進化していくのがいいと考えていた。初めから大きいとそれ以上大きなものをやるとなるとやりきれない。

(委員) 今、出て広がった意見は、いずれ行く末にある話ではある。

(座長) 1回目にはないけど3回目にはあるかもしれない。全部今回実現しようじゃなくって、今回の1回目は、まずメインの講演会があることと、いろんな人が行ってみようかなと思えるようなことをちょ

っと考えたいです。

(事務局) あと、介護ネットとか自立支援協議会にもお願いに行きたいので、集まる場がありましたら教えていただきたいと思います。

(座長) このタイムスケジュールはもうちょっと詰めて、だんだん変わってくると思うんですが、とりあえず概要だけが世間に出ていくことになります。資料に文化会館の部屋の配置もついてますけども、話が決まっていく中でだんだんと詰まっていくと思います。この部屋でないとできないという話がどこかで出るかもしれないし、この部屋がいいというのが出るかもしれない。そうしてだんだん詰まっていくと思います。

(事務局) 有教館高校にお願いに行ってもいいですか。

(座長) 私、一応お願いには行ったんだけど、あくまで案の案ということで持っていったので、改めて詳しいことが決まり次第、行きますって言ってある。

(事務局) ちょっと決めましたので行ってきます。

(座長) 実際にボランティア部門、何人ぐらい出れるとか出られないとかそういう話も、多分、教頭先生か誰かが最終的には窓口になってくださると思います。

(委員) 國信さんの勉強会は、向こうの日程に合わせていくということですよね。多分来週 26 日あたりに決まるんじゃないかなと思うので、それでいいですよね。

(座長) 決まったらみんなにお知らせください。また、これからこのフェアをやっていくについて協力して欲しい団体や、ここのメンバー以外でも参加してくれるようだったら、お声がけをしておいて欲しいと思います。

(委員) 國信先生で決まりってことですね。

(委員) そこはまだ。僕たちのチームではそういうふうにはやっていけないんじゃないかと思っているけど、話を聞いてみてディスカッションして、やっぱりちょっと違うんだったらそこで振り出しに戻す。

(委員) 蒲郡で聞いたときはとてもよかったので、特にメモもせずに僕なりに咀嚼したものを説明できるぐらいの理解ができたので、僕の頭の中ではいいんじゃないかなと思う。ぜひ、もうちょっと咀嚼したものを彼女から発信してもらって、それを多くの人で聞きたいと思う。

(座長) 期待して待ってます。日程が決まったらまたご連絡ください。